

社会福祉士国家試験受験資格

(福祉総合学部福祉総合学科)



社会福祉士国家試験受験資格

(福祉総合学部 福祉総合学科)

I. 社会福祉士とは

社会福祉士は、社会福祉専門職の国家資格であり、社会福祉士及び介護福祉士法によって「専門的知識及び技術をもつて、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行うこと（「相談援助」）を業とする者」（法第2条）と定義されている。

社会福祉士は地域包括支援センターに配置されているほか各種社会福祉施設の生活支援員・生活相談員、相談機関の相談員、公的機関（児童相談所や福祉事務所のケースワーカー）、医療機関（医療ソーシャルワーカー）、教育機関（スクールソーシャルワーカー）、社会福祉協議会のコミュニティ・ソーシャルワーカーやボランティア・コーディネーター、介護保険事業のケアマネジャー等職域と職種は多岐にわたっている。また、判断能力が不十分な人たちを支援する成年後見制度（成年後見人）等においても社会福祉士は活躍している。

現在、社会福祉を取り巻く状況が大きく変化するなか、地域を基盤とした相談援助、地域における就労支援、権利擁護等のサービス利用支援等の分野において、社会福祉士の新たな役割が求められている。

II. 社会福祉士をめざすには

2019年に社会福祉士養成課程のカリキュラムが大幅に改正され、2021年度より新しい養成カリキュラムが実施される。新たなカリキュラムは、より高い実践力を持つ社会福祉士の養成のために現場の仕事に即した内容に見直されており、指定科目の教育内容や名称の変更、新たな指定科目の設置、演習・実習時間数の拡充等が盛り込まれている。

社会福祉士の資格を取得するためには、本学で国家試験の受験資格を得た後、年1回実施される国家試験を受験し、合格しなければならない。国家試験の受験資格を得るためには、本学で厚生労働省の指定科目をすべて単位取得する必要がある（表1を参照）。

社会福祉士国家試験の合格率は約30%と難関であるが、計画的・効率的な学習を継続することで合格の可能性も高くなるので、表2のモデルを参考にして1年次から自分自身の履修計画を立てておくことが大切である。

表1の①～③の指定科目の履修については以下の点に留意し、原則として履修年次に単位取得する必要がある。

1. 表1の④「社会福祉の原理と政策」を「社会福祉原論」,「福祉政策」の2科目に分けて開講しているが,その両方を単位取得しなければならない。
2. 表1の⑩「地域福祉と包括的支援体制」を「地域福祉の理論と方法Ⅰ」,「地域福祉の理論と方法Ⅱ」の2科目に分けて開講しているが,その両方を単位取得しなければならない。
3. 表1の⑪「ソーシャルワーク演習(専門)」を「ソーシャルワーク演習Ⅰ」,「ソーシャルワーク演習Ⅱ」の2科目に分けて開講しているが,その両方を単位取得しなければならない。また,表1の⑫「ソーシャルワーク実習指導」も「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」,「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」,「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」の3科目に分けて開講しているが,全てを単位取得しなければならない。さらに表⑬「ソーシャルワーク実習」も「ソーシャルワーク実習Ⅰ」,「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の2科目に分けて開講しているが,その両方を単位取得しなければならない。ただし,これらの履修については,実習関連科目であることから,別に定められている履修条件を満たす必要がある。その詳細については,各学期に行われるソーシャルワーク実習説明会で説明するので,それに必ず出席し,履修条件を満たさなければならない。
4. ソーシャルワーク実習を行うにふさわしい学業成績(実習前年次終了時点でGPA3.0以上)を有していること。かつ学科の進級要件・実習要件を満たしていること。
5. 表1の⑭「ソーシャルワーク実習」(「ソーシャルワーク実習Ⅰ」,「ソーシャルワーク実習Ⅱ」)の諸手続きや詳細についても,ソーシャルワーク実習説明会において説明するので,それに必ず出席し,手続きのミスや遅れのないようにしなければならない。なお,「ソーシャルワーク実習」においては,履修年次に別に定める登録費を納付しなければならない。
6. 国家試験については,随時,国家試験受験説明会において説明を行うので,それに必ず出席し,受験科目や受験手続きについて確認しておく必要がある。

本学には,社会福祉士をめざす学生を支援するために福祉教育センターが設置されているので,積極的に活用すること(詳細は241頁を参照)。

Ⅲ. 社会福祉士取得に必要な科目とその単位数（表 1）

厚生労働省による（法令指定科目）	対応する本学開設科目		
	科目名	科目名	単位 履修年次
①医学概論	医学概論 I	2	1.2
②心理学と心理的支援	心理学	2	1.2
③社会学と社会システム	社会学	2	1.2
④社会福祉の原理と政策	社会福祉原論	2	1.2
	福祉政策	2	1.2
⑤社会福祉調査の基礎	社会調査	2	2.3
⑥ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	2	1.2
⑦ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	ソーシャルワークの基盤と専門職 II	2	1.2
⑧ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法 I	2	2.3
⑨ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワークの理論と方法 II	2	2.3
⑩地域福祉と包括的支援体制	地域福祉の理論と方法 I	2	2.3
	地域福祉の理論と方法 II	2	2.3
⑪福祉サービスの組織と経営	社会福祉経営	2	2.3
⑫社会保障	社会保障論	4	2.3
⑬高齢者福祉	高齢者福祉サービス	2	1.2
⑭障害者福祉	障がい児・者福祉サービス	2	1.2
⑮児童・家庭福祉	子ども家庭福祉論	2	1.2
⑯貧困に対する支援	貧困に対する支援論	2	2.3
⑰保健医療と福祉	医療ソーシャルワーク論	2	2.3
⑱権利擁護を支える法制度	権利擁護と成年後見制度	2	2.3
⑲刑事司法と福祉	司法福祉	2	2.3
⑳ソーシャルワーク演習	ソーシャルワークの基礎	1	1
㉑ソーシャルワーク演習（専門）	ソーシャルワーク演習 I	2	2
	ソーシャルワーク演習 II	2	4
㉒ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導 I	1	3.4
	ソーシャルワーク実習指導 II	1	3.4
	ソーシャルワーク実習指導 III	1	4
㉓ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習 I	6	3.4
	ソーシャルワーク実習 II	2	4

福祉総合学科社会福祉士受験資格取得予定者履修モデル (表2)

科目群	1年次	2年次	3年次	4年次
学科共通科目群 I (語学)・II (情報)	Fundamentals of English I ②★ 情報メディア演習 I a ①★ 情報メディア演習 I b ①★			
キャリア形成科目群 (この科目群の中より ⑩単位以上選択必修)	基礎ゼミ a ①★ 基礎ゼミ b ①★ 福祉グローバル基礎研修①★ 福祉疑似体験②	福祉グローバル研修②※ 地域プロジェクト a ② 地域福祉研修②※	ゼミナール I a ①★ ゼミナール I b ①★ 地域プロジェクト b ②	ゼミナール II a ①★ ゼミナール II b ①★
選択基礎科目群 (この科目群の中より ⑥単位以上選択必修)	女性福祉論② 福祉文化論② 地域ボランティア論② サステイナブル社会論②	人間学② まちづくり論②	福祉医療ケアシステム論②	
専門科目群 I (福祉関連科目) 社会福祉指定科目	医学概論 I ② 心理学② 社会学② 社会福祉原論② 福祉政策② ソーシャルワークの基盤と専門職 I ② ソーシャルワークの基盤と専門職 II ② 高齢者福祉サービス② 障がい児・者福祉サービス② ソーシャルワークの基礎①	社会調査② ソーシャルワークの理論と方法 I ④ 社会福祉経営② 子ども家庭福祉論② 貧困に対する支援論② 権利擁護と成年後見制度② 司法福祉② 地域福祉の理論と方法 I ② ソーシャルワーク演習 I ②	ソーシャルワークの理論と方法 II ④ 社会保障論④ 医療ソーシャルワーク論② 地域福祉の理論と方法 II ② ソーシャルワーク実習指導 I ① ソーシャルワーク実習指導 II ① ソーシャルワーク実習 I ⑥※	ソーシャルワーク演習 II ② ソーシャルワーク実習指導 II ① ソーシャルワーク実習 II ②※
専門科目群 I (福祉関連科目) (この科目群の中から 22単位以上選択必修)	介護の知識と技術②	国際福祉論② 臨床心理学② ダイバーシティ社会論② 生活と文化② チームマネジメント論②	福祉専門研究 I ② 福祉専門研究 II ② 社会心理学② 福祉ビジネス論②	福祉応用研究 I ② 福祉応用研究 II ② リスクマネジメント論② 人格心理学②
年次単位数	38	38	34	17
累積単位数	38	76	110	127

○のなかの数字は単位数を表す。

★印を付した科目は学部の必修科目である。

※福祉グローバル研修, 地域福祉研修, ソーシャルワーク実習 I・II は, 別途費用負担がある。

